



# 平成 30 年度 1 月の園だより



みみよう保育園

## 【子どもたちとともに】

新年あけましておめでとうございます。  
年末年始は、ご家族とご一緒に楽しい時間をすごされたことと思います。昨年の夏は、西日本豪雨災害が発生し、多くの方が被害にあわれ、自然災害の恐ろしさを目の当たりにした年となりましたが、今年が皆様にとりまして、良い年になることを心より願っております。

みみようでは、「0歳からの幼児教育・集中と選択」をテーマに、子どもたちにとって楽しい保育となるようすすめております。「0歳からの幼児教育」というと、赤ちゃんの時から何かを教えるといった早期教育をイメージされるかもしれませんが、そうではなく赤ちゃんの時から大人にしっかりと相手をしてもらいかわいがられ、まるごと受けとめてもらう中で育まれる大人への信頼感と、自分は守られている・愛されているという自分に対する自信（自己肯定感）を基盤として、いろいろなことに興味をもったり、好きなあそびを見つたりして、友だちや保育者と驚きと感動をともにしながら、何かできるではなくしたくなる、やる気のある子を育てていくことをめざしています。

園では、4月から赤ちゃんの時から自分の好きなあそびが選べるよう、子どもたちが「何かな?」「おもしろそう」「やってみよう」と思えるように、段ボールやペットボトル、空き容器などいろいろな素材を用意し、自然物や五感を使った感触あそびを楽しんだりして、様々なものに触れて遊ん

でいます。  
例えば、お菓子の空き容器に砂やどんぐり、葉っぱを入れてごちそうにしたり、保育者がペットボトルに小石をポトンと入れてみると興味をもって、たくさんの小石をひたすら集めてペットボトルに入れたり、ペットボトルをお人形に見立てて抱っこして揺らして遊ぶ姿がみられました。大人にとっては何でもない素材や廃材であっても子どもたちにとっては、素敵な宝物であり、何でもあそびになるのです。私たちは子どもたちと一緒におもしろがりながら、もっと子どもたちがやってみたくなるような環境を作ったりしかけを考えて、子どもたちの「楽しい」をつなげていきたいと思えます。このように乳児期にいろいろなことに興味関心をもって想像力豊かに一生懸命遊ぶ経験が、「楽しい」「もっと遊びたい」という意欲となっていきます。そして幼児期以降、仲間と一緒に考え工夫したり、何にでも挑戦したり最後までやりとげる力となり、さらに小学校からの学習意欲や何にでも前向きに取り組もうとする姿勢につながっていくものと考えます。

これからも私たちは、大切な乳児期にある子どもたちと関わることに感謝しながら、子どもたち一人ひとりの思いに心をよせ、子どもたちにとっても保護者の皆さんにとっても「楽しい保育」となりますよう努めてまいります。

本年もどうぞよろしく申し上げます。

園長

## 十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて「お正月の朝早く来たものから12番目の者をその年の干支にする」と言いました。猫はうっかりしていたのでネズミに尋ねました。ネズミはわざと約束の次の日を教えました。ネズミが牛のところに行くと牛は、「歩くのがゆっくりだから、早く出かけるよ」と言うのでネズミはすかさず牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の門の前まで来るとネズミは牛の背中から飛び降りて、「私が一番!」と名乗りました。そして、牛が2番です。次々にトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと干支をつけてもらいました。

次の日に行った猫は、誰もいないのであわてて門番に尋ねると「顔を洗って出直して来い」といわれました。猫が良く顔を洗うしぐさをするようになり、ネズミを追いかけるのはこのときからだそうです。



## 鏡開き

1月11日は、鏡開きです。お正月にお供えしたお餅を割り、おしるこなどにさせていただきます。お餅を割る時に、一年の健康をお祈りすると元気に過ごせるといわれています。



## 子育て応援メッセージ

ともに喜び  
悲しみあいながら  
一歩ずつ成長していける  
親と子でありたい



子育て中は、時間に追われるように過ぎていく毎日。でも、そんな時こそちよっと立ち止まってみませんか?

子どもと同じ目線に立って、同じ気持ちを共有することで、心が通じ合える。

子どもの心に敏感になり、喜びや悲しみに気づき、ともに成長していきたい。少しずつでいいから…。

(社)全国私立保育園連盟  
子育てメッセージより

## 成人の日 1月14日

大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を祝い、励ます日で、昭和23年に制定され、平成12年(2000年)から1月の第二月曜日に定められました。民法では、「満二十歳ヲ以ッテ成人トス」とあり、法律上独立の社会人としての地位を与えられます。

わが国では古くから成人を祝うしきたりがあり、男性は元服、女性は裳着<sup>もんぎ</sup>といいました。まだまだ成人には年月がかかる子どもたちですが、夢と希望を持って成人できるよう、私たち大人が毎日明るく、前向きな姿を見せていきたいものです。